



MON Nara 通信



Numéro 23

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

DÉCEMBRE 2025 12月

これからの催しご案内

第67回日仏シネクラブ例会 アラン・ドロン追悼③『太陽がいっぱい』

「アラン・ドロン追悼」特集第3回目のプログラムは『太陽がいっぱい』(1960)です。この作品は2013年の第30回例会の「フレンチ・サスペンス」特集として一度とりあげたことがありますが、今回はアラン・ドロンの代表作としてあらためて見直してみたいと思います。

- ❖日時: 3月1日(日) 13:30~17:00
- ❖会場: 奈良市西部公民館 5階視聴覚室 (予定)
- ❖プログラム: 『太陽がいっぱい』(1960年, *Plein Soleil*, 118分)
- ❖監督: ルネ・クレマン
- ❖参加費: 会員 200円、一般 300円
- ❖問合せ: Nasai206@gmail.com tel: 070-1731-0230 (浅井)
- ❖予約不要

❖**プレゼンターからのメッセージ:** 『太陽がいっぱい』は映画史上において名高い作品ですので、すでにご覧になっている方も多いかもしれません。原作は米国のパトリシア・ハイスミスの『才能あるトム・リプリー』(The talented Mr. Ripley)。



この映画の大ヒットにより、アラン・ドロンはいちやく世界的な映画スターになりました。彼が演じる野心家の青年トムの人間像、アンリ・ドカエの見事なカメラワークがとらえる海辺の佇まい、ニーノ・ロータの哀愁を誘う旋律、ルネ・クレマンとポール・ジェゴフの巧みな脚本、『禁じられた遊び』(1952)『居酒屋』(1956)で知られるルネ・クレマン監督の新たな境地。それらすべてが一体となって、この作品は独特の輝きを放っています。フラ・アンジェリコの絵画、太陽の光と青い波に揺さぶられる白いヨット、イタリアの鄙びた小さな港町の風情、背景の海に浮

かぶ黒い帆船など、細部の描写が不思議な魅力を添えています。誰が犯人なのか早くから観客の目にはそれとわかるように示されていて、「犯人探し」がサスペンスの核心ではなさそうです。ではなぜ、この作品は見る者をはらはらさせるのでしょうか？ じっくりと映画をご覧になって、各人、心の中で問いかけてみてください。(浅井直子)



第10回美術クラブ例会の予告

来年3月の中頃に、第10回美術クラブ例会を開催すべく、現在企画が進行中です。内容は、奈良の学園前にある松伯美術館の特別展「上村三代と京都市立芸術大学(仮)」(3/7~5/24)にあわせて、柏木加代子さん(京都市立芸術大学名誉教授)からのお話を伺ったあと、特別展の鑑賞会を実施しようというものです。

柏木加代子さんは、ガイドクラブの催しに、ご主人の柏木隆雄さんといつも一緒に参加されているので、皆さんもよくご存じだと思います。今年のガイドクラブにも参加され、7月に出版されたばかりの自著『磨く松園、見る松篁、誘う淳之』(大垣書店)を紹介されたのがきっかけとなって、三野会長が中心となって、この企画が実現したものです。私もご本を読みました。日本近代の絵画について疎かったので、明治の美術教育のあり方や日本画壇の動き、とくに京都画壇が京都の教育機関と相俟って、東京の画壇と対抗するかのよう活動している様子を知ることができました。



パリ万博への日本画の出品、日本画家の渡仏などの日仏交流や、日本の伝統絵画とフランス作家の美学の比較など、フランス文学者ならではの視点もあり、また上村松園、松篁、淳之という三代の画人の生い立ちが、柏木さんがお勤めだった京都市立芸術大学の沿革と併せて語られていて、興味深く読むことができました。ご本には多数の挿絵が掲載されていましたが、やはり松伯美術館へ行って、じっくりと大きな画面で絵を鑑賞したいという思いが強くなりました。次のMon Nara 2月号では、詳細の告知ができると思いますので、楽しみに待っていてください。(杉谷健治)



2026 年度総会のお知らせ

奈良日仏協会の 2026 年度総会を下記のとおり開催する予定です。日頃の協会活動へのご感想やご希望を話し合う良い機会ですので、ぜひご参加ください。懇親会では、毎年恒例のミニコンサートを行う予定です。楽しみにしててください。詳細案内は、1 月下旬にお届けします。

❖日時:2026 年 2 月 11 日(水・祝)、14:40~17:20

❖会場:野菜ダイニング「菜宴」(奈良市小西町 19 マリアテラスビル)



活動記録

☆ 11 月 2 日(日):2025 年ガイドクラブ「聖林寺と安倍文殊院を巡る」案内役:本田倫子(奈良日仏協会会員)
詳細報告は、Mon Nara 2 月号をご覧ください。

《2025 年度第 5 回理事会報告》…事務局

☆日時:2025 年 11 月 20 日(木)15:00~16:40。☆場所:野菜ダイニング「菜宴」。☆出席者:三野、浅井、藤村、高松、喜多、菌田、三木、杉谷。 ☆議題
1. 2025 年度会費納入額・会員数。2. 前回理事会(9/18)後の活動:2025 年ガイドクラブ(11/2)。3. 今後の行事:秋の教養講座(11/23)、2026 年度総会(2/11)、第 67 回シネクラブ「アラン・ドロン追悼」(3/1)、第 158 回フランス・アラカルト(時期未定)、第 10 回美術クラブ「松柏美術館特別展」(時期未定)、2026 ガイドクラブ「法隆寺訪問」(4/中)、2026 秋の教養講座「総合芸術としてのバレエ」(11/下)。4. 来年度役員人選。5. Mon Nara、Mon Nara 通信。6. その他:オリヴィエ・シャルリエ・コンサートへの後援名義。7. 次回理事会:1 月 15 日(木)15:00~16:30 野菜ダイニング「菜宴」。



後記

☆Mon Nara 通信 12 月号をお届けします。☆今年の秋は、熊の出没のニュースがもちきりでした。奈良県でも、宇陀市、五條市、十津川村、東吉野村から、最近では、春日山原始林のあたりでも目撃されたという話で、もう少しで奈良公園にも出没かと心配になりました。同じ熊の間でも、パンダは可愛いとされ、またテディベアとか、熊のプーさんとして親しまれる存在でもありますが、今年は人身被害も多く、改めて熊の怖さを知りました。人間が自然を手なずけたと思えば、そうではなかったということです。ヨーロッパでは熊は北の方にしか居ないらしく、フランスでは狼が熊に代わる怖い存在だったようです。以前見たフランス映画で、『ジェヴォーダンの獣』というのがありました。面白かったので関連本で調べてみると、実際に 18 世紀半ば、フランス中南部のジェヴォーダン地方で起こった話で、1764 年 7 月から 67 年 6 月にかけて、獰猛な獣に 100 人以上の人が食い殺され、2 万人もの猟師や農民が討伐に参加し、最終的には国王の軍隊が派遣されるという事態に発展した事件ということです。その獣は狼という説が有力ですが、熊という説もありました。襲われた人は顔面だけが食い荒らされているので、私は熊のような気がします。フランスで熊を題材にした小説では、メリメの短編「熊男(原題 Lokis)」が有名です。象徴主義の先駆のような作品で、伯爵夫人が熊に攫われ、気が狂った状態で発見されるが、その子の伯爵がどうやら熊男らしいというのが、いろんな場面でほめかされる怪奇小説です。またあまり知られていないと思いますが、19 世紀末のジャン・リシュパンという作家に、『Miarka la fille à l'ourse(熊娘ミアルカ)』という長編小説があり、これはジプシーの娘の主人公が、飼っている雌熊のプーズリに育てられるという設定になっていて、その熊は熊のプーさんのモデルになったと思われるほど可愛らしく描かれていました。(杉)

◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。

◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。次回 Mon Nara 2 月号は 1 月 31 日が原稿締切日です。

◆会員のみなさまで「Mon Nara」(2 月、6 月、10 月発行)、または「Mon Nara 通信」(4 月、8 月、12 月発行)に**チラシ同封を希望される方は**、1) 内容がフランスに関わるもの、2) 本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2025 年 12 月 numéro 23

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者:三野博司